



本町ほのぼのだより 第26号

発行：中野区立本町図書館 中野区本町2丁目13番2号 Tel 03-3373-1666

発行年月日：平成27年8月29日 第26号

第26回 本町図書館 個性づくりテーマ展示

見えない世界

本町図書館では、『文化・芸術・芸能』に関する資料を、絵画や音楽、工芸、伝統芸能など幅広い分野にわたって収集・展示をしております。

第26回目となる今回は、「見えない世界」と題して、「日本の妖怪画・幽霊画・地獄絵」をテーマにした展示をお届けします。

皆さんは、幽霊や妖怪、そしてあの世の存在を信じますか？昔から、人間は目に見えない存在におびえ、その姿を想像してきました。そして、日本では幽霊や妖怪などの恐ろしい存在を絵巻や掛け軸などに描いてきました。特に江戸時代には、妖怪画や幽霊画がたくさん作られ、各地にユニークな作品が残されています。

今回ご紹介する「妖怪画・幽霊画・地獄絵」を通して、日本人の宗教観や日本絵画の歴史を考えてみてはいかがでしょうか。



展示場所：本町図書館 2階書架

展示期間：平成27年8月29日(土) ～ 10月29日(木)

※ 展示資料は貸出もできます。



妖怪画

● 見えないモノへの畏怖から「妖怪」は生まれた



《和漢百物語》より
「頓欲の婆々」※

妖怪という存在が生まれた背景には、コントロールできない天変地異や天候への恐れ、疫病の流行などへの不安、更に時代の変化などが存在しています。

災害や疫病が発生すれば命が奪われるのは勿論のこと、先祖から受け継いできた共同体の存続も危機に晒されました。また現代ほど照明も発達しておらず、夜になれば見慣れた道や田畑も漆黒の闇に包まれ、屋内も行灯の照明をつけてもほの暗く、人がいない空間は真っ暗闇でした。その暗闇の中に、昔の人々は何かの気配を感じていたのかもしれません。

そんな様々な不安や恐怖から、「妖怪」という存在が生まれていきます。

● 「絵巻」と「百鬼夜行」



《百鬼夜行絵巻》より※

日本の絵画史の中で「鬼」や「物怪」が登場するのは平安時代末の12世紀頃です。まだこの頃は中国の民間信仰などの影響を受けていました。

時代が中世に入ると絵巻物が盛んに描かれ、「妖怪」は世間で人気のある御伽草子を題材にした御伽草子絵巻にたびたび登場することになります。しかし『酒吞童子絵巻』や『土蜘蛛草子絵巻』は妖怪に立ち向かう英雄の勇猛さがテーマであり、妖怪は主役を引き立てる脇役にすぎない存在でした。

室町時代に入ると、土佐光信作とされる現存最古の妖怪絵巻『百鬼夜行絵巻』が描かれます。「百鬼夜行」とは、異形のモノ達が列を作り、夜道を歩くことで、遭遇した人間は死ぬとされています。この絵巻が描かれた15世紀から16世紀頃は戦国時代であり、不安定で無秩序な世の中でした。当時、都では夜盗が我が物顔で暴れており、百鬼夜行はそうした物騒な時代を反映して描かれたと言えるでしょう。

鎌倉時代までは、説話に登場する百鬼夜行のメンバーはいかにも鬼らしい鬼がメインでしたが、室町時代以降に描かれた百鬼夜行の絵巻では、動物や魚、道具などが鬼として描かれました。これは『鳥獣人物戯画』のように動物を擬人化した戯画や、御伽草子の影響によるものと考えられています。前述した土佐光信作とされる『百鬼夜行絵巻』では、長い年月を経て霊が宿った道具である「つくも神」の割合が特に多く、これ以降、百鬼夜行の図ではつくも神が行列の中心として描かれるようになります。



《百鬼夜行絵巻》より※

●江戸の妖怪ブーム



《百鬼夜行》より
「河童」※

江戸時代になると集団で描かれていた妖怪は単体で描かれる事が多くなり、百鬼夜行に登場するつくも神などがキャラクター化され、浮世絵や物語に登場していくことになります。

この時代に妖怪文化が広がり、身近になっていった背景には木版印刷の発展もあります。それまで絵巻は数が限られていたため、誰もが手に取れるものではありませんでした。しかし木版印刷が発展したことで大量生産が可能となり、庶民でも安価に入手できるようになったのです。

妖怪画を語る上で欠かせないのが、江戸時代初期～中期を生きた鳥山石燕の『画図百鬼夜行』です。この作品には日本や中国の故事や古典、謡曲や本草子（博物学）などを元にした200あまりの妖怪が登場していて、後世の妖怪画に強い影響を与えました。水木しげるの『ゲゲゲの鬼太郎』に登場する妖怪達は石燕の妖怪画に拠っており、その影響は現代まで続いています。

石燕以外にも葛飾北斎や歌川広重など、多くの絵師たちが妖怪を描いています。

『富嶽三十六景』で有名な葛飾北斎は五十代半ばから全十五編に渡る『北斎漫画』を刊行し、その中で妖怪や神々などの目に見えない存在を描いており、豊かな想像力を発揮しています。伝奇小説である「読本」の挿絵を多く手がけていた経験もあり、ドラマチックな絵画表現で見るものを魅了します。

時代が大きく変化を始める幕末から明治の初期になると、月岡芳年が登場します。彼は古典や故事を下敷きにしつつ、新たな解釈と独創的な作画を試み、『和漢百物語』や『新形三十六怪撰』を描きました。作品の中ではコミカルな表情や動きをした妖怪と慌てふためく人々が描かれ、その精密な描写が衝撃を与えることも少なくありませんでした。



《和漢百物語》より
「清姫」※

●「恐ろしい存在」から、「愛らしいキャラクター」へ



名前を与えられ、姿や特徴など共通認識が作られることによりキャラクター化した妖怪は、「怖くない存在」となり、双六やカルタなどの遊び道具にも描かれていきました。広がった妖怪文化は絵や版本にとどまらず、着物や印籠などの装飾品や、武具にもデザインされました。

今でも妖怪はマンガや小説、映画やテレビゲームなど様々なメディアに登場しており、「愛らしいキャラクター」としての妖怪の流れは、現代まで受け継がれています。

参考文献

『今昔妖怪大鑑 湯本豪一コレクション』 湯本 豪一 著 / パイインターナショナル (708.7 コ)

『ニッポンの奇天烈な絵画』 かみゆ歴史編集部 編 / 株式会社総合図書 (721 ニ)

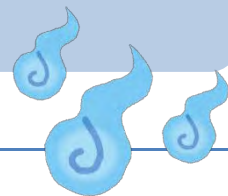
『妖怪萬画 Vol.1 妖怪たちの競演』 / 株式会社青幻舎 (721.0 ヨ 1)

『妖怪萬画 Vol.2 絵師たちの競演』 / 株式会社青幻舎 (721.0 ヨ 2)





幽霊画



●幽霊とは



幽霊とは、死んだ人の霊がこの世に現れたものです。『東海道四谷怪談』のお岩や『番町皿屋敷』のお菊の話に代表されるように、非業の死をとげた者が恨みを晴らしにくるなど、この世に何か心残りのある者が、あの世に行けなくて現れると考えられています。また、恨みをいだいてたたりをする幽霊を怨霊と言います。日本では古くから、無実の罪や不慮の事故で死んだ人間の霊は疫病や災害をもたらすと信じられ、恐れられました。

《新形三十六怪撰》より「皿やしきお菊の霊」※

●幽霊と妖怪の区分は？

幽霊と妖怪の区分については、意見が分かれています。幽霊も妖怪の一種という考え方があれば、一方で、幽霊と妖怪は別のものという考え方もあります。江戸時代になると、幽霊や妖怪を総称する「化物」という語が出てきます。鳥山石燕の『画図百鬼夜行』には「幽霊」「生霊」などが他の妖怪とともに登場します。江戸時代には、すべて化物として認識されていたことが分かります。広辞苑では、幽霊は「死者が成仏し得ないで、この世に姿を現したものの」、妖怪は「人知では解明できない奇怪な現象または異様な物体」と定義されています。

●幽霊画について

一般に、日本の幽霊は足がありませんが、昔からそのように描かれてきたのではありません。岩佐又兵衛の『山中常盤絵巻』第6巻に、足のある常盤御前の幽霊の姿が描かれています。では、いつ頃から足がない幽霊が描かれるようになったのでしょうか？1673年に刊行された『花山院きさきあらそひ』の挿絵には、足のない幽霊が描かれています。そして、18世紀に円山応挙が掛け軸に足のない幽霊を描きました。このことが大評判となり、足のない幽霊が描かれるようになったと言われています。また、掛け軸に幽霊を描くことも流行しました。

浮世絵の世界では、石燕のほか、葛飾北斎も幽霊画を描いています。北斎は『百物語』に特異な幽霊画を描き、歌川国芳・月岡芳年なども幽霊や妖怪を主題とした作品を残しており、それぞれの作品は見事なものです。また、幽霊に扮した役者絵も浮世絵では見逃せず、歌川豊国をはじめ歌川国貞・豊原国周など多くの作品が知られています。



参考文献

『広辞苑』新村 出 編/岩波書店 (813.1 コ)

『図説江戸の幽霊』 / 洋泉社 (147.6 ズ) 野方図書館所蔵

《あづまにしきゑ》より「応挙の幽霊」※

地獄絵

●地獄絵とは



《餓鬼草紙絵巻》より※

地獄は人間が死した後、生前の罪を問われて責苦を受ける場所と考えられています。日本では仏教を基本としているものが多いですが、仏教以前の死後世界を描いたものがあり、それらも地獄絵と称されているため、日本において地獄絵というのは死後の世界を描いた絵の総称となっています。

●地獄絵のはじまりと発展

日本における地獄は、6世紀末、仏教とともに伝わりました。それが仏教伝来以前から日本に根付いていた死生観と合わさり、日本独自の地獄の観念が形成されていきました。現存する最古の地獄絵は8世紀に描かれたとされる東大寺二月本尊光背裏面の線刻画です。10世紀末に書かれた『枕草子』にも、宮中の年中行事に「地獄変相図」という屏風を使っていた記述がみられ、地獄絵が古くから描かれていたことがわかります。

地獄絵の発展に大きく関わったとされるのが、10世紀に天台宗の僧源信（恵心僧都）が書いた『往生要集』です。仏教では死後、生前の行いによって、天道・人道・阿修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道の六道いずれかに生まれ変わるとされています。それまで考え方としてはあったものの、それを体系化し、具体的に記したのが『往生要集』でした。これによって、それまで漠然としたイメージだった来世が具体性を持ち、さらにそれを絵画化することで地獄絵が発展していきました。『往生要集』をもとに、この六道を描いたものを総称して『六道絵』と呼びます。

さて、死後の世界というと閻魔大王を含む10人裁判を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。実はこの閻魔大王は、上記の『往生要集』にはほとんど記述がありません。閻魔大王はもともとインドの神様で、中国に伝わった際に道教と結びつき、閻魔大王を含む10人の冥界の王に裁かれるという十王信仰が生まれました。この十王信仰は12世紀に中国から日本に伝わりました。鎌倉時代後期になると平安時代からあった『六道絵』と新たに伝来した十王信仰が合わさった絵が生まれ、現在のイメージに近い地獄絵となっていったのです。



《十王寫》より※



参考文献

『図説地獄絵の世界』 小栗栖 健治 著 / 河出書房新社 (721.2 オ)

『図説地獄絵を読む』 澁澤 龍彦・宮 次男 著 / 河出書房新社 (721.2 シ)

『地獄絵を旅する』 加須屋 誠 監修 / 平凡社 (721.2 ジ)

※の画像は、国立国会図書館ウェブサイトより転載。



展示図書リスト

書名	著者	出版者	出版年	分類記号
日本人の「地獄と極楽」	大角 修 監修	PHP 研究所	2014	188.6 ケ
江戸の妖怪	江戸妖怪研究会 編	ダイアプレス	2015	388.1 エ
妖怪	小松 和彦 監修	KADOKAWA	2015	388.1 ヨ
妖怪の常識		双葉社	2014	388.1 ヨ
今昔妖怪大鑑	湯本 豪一 編著	パイインターナショナル	2013	708.7 コ
ニッポンの奇天烈な絵画	かみゆ歴史編集部 編	綜合図書	2014	721 ニ
知識ゼロからの日本絵画入門	安河内 眞美 著	幻冬舎	2009	721 ヤ
肉筆幽霊画の世界	安村 敏信 編著	新人物往来社	2013	721.0 ニ
図説地獄絵の世界	小栗栖 健治 著	河出書房新社	2013	721.2 オ
地獄絵を旅する	加須屋 誠 監修	平凡社	2013	721.2 シ
やまと絵	村重 寧 監修	平凡社	2012	721.2 ヤ

日本の妖怪画などを調べてみよう！

今回ご紹介した、「妖怪画」「幽霊画」「地獄絵」に関する図書はたくさんあります。また、図書のほかに、雑誌記事、新聞などでも調べられます。いろいろな情報源を使って、調べてみましょう。

1. キーワードを使って調べよう

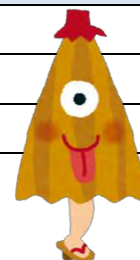
次のキーワードを参考にして調べよう。

地獄	妖怪	幽霊	お化け	怪談	民間信仰
日本画	大和(やまと)絵	絵巻	浮世絵	浮世絵師	怨霊

2. 基本的な情報源を使って調べよう

辞書・事典類を使って、テーマについての基本的な事柄を押さえよう。

書名	請求記号	所蔵館
日本妖怪大事典	388.1 ム	本町・中央
日本美術図解事典	702.1 ニ	本町
浮世絵レファレンス事典	R721.8 ウ	中央



3. 図書を探そう

図書館では、関連分野ごとに図書が並んでいる。[テーマの棚]を実際に見て、図書を探そう。

分類	請求記号	分類	請求記号	分類	請求記号
妖怪・幽霊	147.6	迷信、民間信仰	387	伝説・昔話	388
仏教芸術	702.098	日本画	721		

図書館のホームページやOPACを使って、図書を探そう。



〔中野区内に図書があるか〕

●中野区立図書館ホームページを使って調べよう。

→ <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/index.asp>

〔東京都内に図書があるか〕

●東京都立図書館のホームページを使って調べよう。

→ <http://www.library.metro.tokyo.jp/>

〔国内に図書があるか〕

●国立国会図書館のホームページを使って調べよう。

→ <http://www.ndl.go.jp/>



4. 雑誌・新聞記事を探そう

●中野区立図書館で所蔵している主な雑誌

タイトル	所蔵館
芸術新潮	本町・中央・鷺宮・東中野・江古田
美術手帖	(本町なし)中央・野方

●中央図書館参考室の雑誌新聞記事索引データベースを使って調べよう

日経テレコン21	1975年からの日経4紙(経済・産業・金融・流通)の新聞全文や企業情報などが検索可能。
聞蔵IIビジュアル	朝日新聞のほか、知恵蔵・AERAなどが検索可能。
MAGAZINE PLUS	雑誌記事や論文情報検索が可能。
WHO PLUS	歴史上の人物から存命中の人物について検索可能。
官報情報検索サービス	1947年から当日までの官報が検索可能。
D1-Law.com	判例などの法律情報が検索可能。

5. インターネットを使って調べよう

●美術図書館横断検索システム <http://alc.opac.jp/>

東京都内もしくは近郊の美術館・博物館に付属する図書館の資料を検索することが可能です。また、CiNii Booksで大学図書館が所蔵する本を検索できます。

●独立行政法人国立美術館 所蔵作品総合目録システム <http://search.artmuseums.go.jp/>

東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館が、収蔵している所蔵作品を検索することが可能です。

●国際日本文化研究センター データベース <http://db.nichibun.ac.jp/ja/>

日本文化に関する様々な研究を行っているところです。「怪異・妖怪画像」「怪異・妖怪伝承」などのデータベースで妖怪について調べることが可能です。



本町図書館からのお知らせ

本町図書館個性づくり展示「見えない世界」はお楽しみいただけましたでしょうか。
これからもみなさまの身近にある、お役に立つ図書館、新しい発見のある図書館を
目指して、スタッフ一同取り組んでまいります。

☆おはなし会☆

毎週土曜日 11:00～11:30
第4水曜日 15:30～16:00
児童室にて開催中！
第4土曜日は乳幼児向けの
「おひざでだっこのおはなし会」

☆個性づくり展示☆

下記の個性づくりの本は展示しています。

第二十二回・伝統芸能
第二十三回・表現する人2
第二十四回・西洋画
第二十五回・彫刻

児童コーナー

秋の子ども会

平成27年10月3日(土)



第一回～第二十一回の
個性づくりの本は
一般書架にあります。



☆9月・10月の休館日のご案内☆

<9月>

14日の月曜日

25日(金)・館内整理日

<10月>

13日の火曜日

30日(金)・館内整理日



『本町ほのほのだより』
第27号は10月31日
発行予定です。